

報道関係者各位

ピーシーアイ株式会社

2023年9月14日

ロイヤルエンフィールド、新型「Bullet350」を発表

The New Royal Enfield Bullet – 新しい心臓。不変の鼓動。

- ロイヤルエンフィールドは、世界のお客様に向けて新型の Bullet 350（ブリット・サンゴーマル）を発表します。1932年に遡る比類なき伝統を持ち、シンプルで耐久性が高く、魅力的なモーターサイクル・ブランドの長い歴史を具現した、最新のアバターです。
- Bullet は、J シリーズエンジンプラットフォームをベースに、英国製 OHV 単気筒の伝統的なルーツに忠実でありながら、現代的な願望に応える新たなレベルの洗練を実現しています。



2023年9月1日 インド-チェンナイ：中型（250cc～750cc）モーターサイクル・セグメントの世界的リーダーであるロイヤルエンフィールドは本日、新型 Bullet 350（ブリット・サンゴーマル）の発売を発表しました。限らない強靱さの輝かしきシンボルであり、モーターサイクルと自動車の歴史において不朽の名声を誇るロイヤルエンフィールド Bullet 350 は、その伝説を新たな姿で継承しています。豊富な実績のある、スムーズで洗練された J シリーズエンジンプラットフォームを採用したこのアイコン的なモーターサイクルは、90年以上の伝統を誇り、力強い美学とクラフツマンシップ、そしてこれまで築き上げてきた活気に満ちたカルチャー、そしてロイヤルエンフィールドが象徴するコミュニティとキャラクターを融合させ続けています。

アイシャー・モーターズ社マネージングダイレクターのシッダールタ・ラルは、彼自身が Bullet と過ごした旅の体験を振り返りつつ、このように述べています。「1994年の夏、私は Bullet に乗って、大胆不敵で冒険的なヨーロッパ横断の旅をしました。私より前にも、そして私より後にも、おそらく多くの人がこうした旅をしたことでしょう。しかしそれは私にとってモーターサイクルと過ごした最も記憶に残る経験でした。Bullet は、何世代ものライダーにとって、純粋なモーターサイクルの決定的なシンボルであると同時に、ロイヤルエンフィールドの歴史の重要な一部でもあったことは間違いありません。そのエンジニアリング、デザイン、魅力、象徴性、そしてそれが形作るコミュニティのキャラクターは、何十年という時を経てもなおストイックであり続けており、インドをはじめ世界中の多くのライダーや自動車愛好家にとって、名誉とアイデンティティの証しとして愛されてきました。今日、Bullet が新たな姿で走り出す中、その遺産を受け継ぐ上で重要な役割を果たせることを本当に光栄に思います。」

時の試練に耐えてきたモーターサイクルがあるとすれば、それは伝説的なロイヤルエンフィールド Bullet です。1932年に発表された、モーターサイクル・デザインの最先端を行く作品でした。1948年に抜本的に改良された折に加わった画期的なスイングアーム式リアサスペンションは、モーターサイクル界に旋風を巻き起こし、他のすべてのメーカーがすぐに追随しました。

過酷な地形での卓越した性能、インド軍での活躍、そして1955年のマドラス（現在のチェンナイ）における生産開始により、ロイヤルエンフィールド Bullet は数十年にわたり The King of India's roads として君臨するまでに成長しました。2010年、ロイヤルエンフィールドの象徴である UCE エンジンを搭載して復活を遂げたこのモデルは、モーターサイクルとして、また文化的アイコンとして、人々の憧れであり続けています。

Bullet にできないことはほとんどありません。その驚くべきライフスパンの間、想像できるほぼすべての仕事を引き受けてきました。トライアルやインターナショナル・シックスデイズ・トライアル大会でチャンピオンになり、マン島 TT レースでラップレコードを樹立し、最高峰の峠を制覇しました。また、週末の小旅行から世界一周の冒険まであらゆる旅の信頼できる仲間になったり、頼もしい日々の移動手段や丈夫な作業車として使われたり、さまざまなカスタムバイクのプラットフォームとして使われたり、戦場に出たりと、世界中の100万人以上の情熱的なライダーの忠実なパートナーとして活躍してきました。

Bullet は世界で最も長く生産され続けているモーターサイクルモデルであるだけでなく、インドの社会構造の一部でもあります。世代から世代へと受け継がれる家宝であり、1200を超えるライディングクラブが誕生しています。これらの忠実な愛好家にとって、コマーシャルフィルム等で長年愛されている楽曲 Bullet Meri Jaan（「Bullet Is My Life」）はキャッチーなだけでなく、信頼性、ストイックさ、そして個性を象徴する強力なシンボリズムを体現しています。

そして今、この最も実用的で信頼できるモーターサイクルは、そのユニークな伝統、堂々としたスタンス、オールメタルのボディ、独特の鼓動を発するトルク豊かなエンジンにより、エキサイティングな新時代へと導いていくのです。

ロイヤルエンフィールドの CEO である B・ゴビンダラヤンは、新型 Bullet の発表について、こう述べています。「私にとって Bullet は、快活なエンジニアリングと美しさの紛れもないシンボルです。戦争と平和を揺るぎない信頼性で耐え抜き、90年以上にわたって最も勇敢な人々の味方であり続けてきました。ピンストライプが施され、3世代にわたる職人の手作業で作られた Bullet は、流行や気まぐれに左右されることなく、その威厳ある魅力を保ち続けています。すっきりとしたシンプルなフォルムは、その頑丈さや気骨ある内面とは対照的です。私たちは、ロイヤルエンフィールド Bullet が新たなフォルムとアバターへと移行し、100年、そしてその先へと揺るぎなく走り続けるために、意識してその遺産のエッセンスを保持するよう努めました。」

新型 Bullet 350 は、Meteor、Classic、Hunter にも搭載され、世界的に高い評価を得ている最新の 349cc 空油冷単気筒エンジンを搭載しています。フューエルインジェクションにより、最高出力 20.2ps/6,100rpm、最大トルク 27Nm/4,000rpm を発生し、低回転域での力強さ、非常にスムーズでリニアなパワーデリバリー、洗練された爽快な

走りを実現します。振動を低減するプライマリーバランサーシャフトを採用することで、レスポンスと洗練されたフィーリングを実現しています。最適化された 5 速ギアボックスによって変速はキビキビとスムーズで、最高のライディングエクスペリエンスを約束できます。シャーシには、ハンドリングと操縦性を向上させる設計が施されています。これまでの Bullet よりもサスペンションは硬めに設定され、コーナリングスピードを上げたときの安心感を高めるとともに、直線道路ではしっかりと安定性を感じさせます。大径 41mm フロントフォークと、フロント 100/90-19、リア 120/80-18 というワイドセクションタイヤが、これまでの Bullet よりもハンドリングを向上させています。フロントは 300mm ディスクブレーキ、リアは 270mm ディスクまたはドラムブレーキを装着。快適性を確保するシングルベンチシートは、マッドガードのデザイン変更とともに、巧妙に進化したスタイリングに貢献しており、このモーターサイクルのプロポーション、スタンス、美的バランスを著しく向上させています。

Bullet 350 はインドでは 3 つのエディションでリリースされ、すべて手作業で仕上げられたプレミアムな仕上がりでライダーを楽しませます。「ミリタリーレッド」と「ミリタリーブラック」は、シングルチャンネル ABS、リアドラムブレーキを装備し、ソリッドカラーのシングルタンクと上品なデカールで仕上げられています。ブラックまたはマルーンカラーの「スタンダード」は、デュアルチャンネル ABS とリアディスクブレーキを装備し、エレガントなハンドピストライプのボディカラータンクとコンポーネント、クロームとゴールドのバッジで仕上げられています。「ブラックゴールド」は、マット&グロスブラックのタンク、銅&ゴールドの 3D バッジ、銅のピストライプ、流行のブラックアウトされたエンジンとコンポーネントの組み合わせが印象的な仕上がりで、デュアルチャンネル ABS とリアディスクブレーキが装備されています。

3 モデルとも、特徴的な 13 リッターのティアドロップ型タンクと、1954 年以來ロイヤルエンフィールド製モーターサイクルの不変の特徴である「タイガーアイ」と呼ばれるパイロットランプを持つ新しいヘッドランプを備えた、伝統的なロイヤルエンフィールド・キャスケットを装備しています。さらに現代的なテイストとして、液晶インフォメーションパネルを内蔵する新しいデジタル・アナログ併用式メータークラスターと、ハンドルバーの下に配置された USB 充電ポートが挙げられます。操作系には、使いやすさと人目を引くレトロな魅力を併せ持つ美しいスタイルのロータリースイッチ・キューブを採用し、デザイン、フィット感、仕上げがトップクラスとなるよう特別な配慮がなされています。

新型 Bullet 350 は、Bullet 専用設計・開発された 9 つのアクセサリーを含む、37 の純正モーターサイクルアクセサリーによってサポートされ、その中には、快適なツーリングシートやローライズシート、ツーリングハンドルバーなどが含まれます。また、Bullet の伝説的なピストライプのディテールを再現したアパレルなど、高品質なライディング・ギアも取り揃えています。

このようなモーターサイクルは他にありません。伝統に忠実でありながら、アップデートされ、新しい世代のライダーにふさわしい Bullet は、ロイヤルエンフィールドの「純粋なモーターサイクル」の DNA を受け継ぐ役割を担っています。ロイヤルエンフィールドは、今こそ世界中の人々が新しい観点から Bullet を見るべき時であり、この控えめなスタイルと時代を超越した強靭さを持つ、本物の輝くシンボルにもう一度恋をしていただく時であると考えています。

待ちに待った、新型 Bullet 350 は、ロイヤルエンフィールドの華麗なる王冠の宝石として、その正当な地位を確立するためにここに登場します。

※日本市場への導入に関しては別途ご案内いたします。

#Bullet350 #PureCruising #PureMotorcycling #RoyalEnfield

<ロイヤルエンフィールド社について>

ロイヤルエンフィールドは、1901年の創業以来、美しいオートバイを作り続けている最も古いモーターサイクルブランドです。イギリスにルーツを持ちますが、1955年にインド・マドラスに製造工場が設立され、これを足がかりにロイヤルエンフィールドはインドの中型二輪車セグメントの成長を先導してきました。ロイヤルエンフィールドでは、「Pure Motorcycling（ピュア・モーターサイクリング）」と呼ばれるアプローチの下に、魅力的で、シンプルで、親しみやすく、乗るのが楽しい、探検と自己表現のための乗り物を作ってきました。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、スタイリッシュな「Hunter 350（ハンター・サンゴーマル」、時代を超越した「Classic 350（クラシック・サンゴーマル」、クルーザーのMeteor 350（メテオ・サンゴーマル」、650平行ツインモーターサイクルの新型「Super Meteor 650（スーパー・メテオ・ロクゴーマル」、「INT650（アイエヌティ・ロクゴーマル）」、「Continental GT650（コンチネンタル・ジーティー・ロクゴーマル）」があります。アドベンチャー・モーターサイクルでは、「Himalayan（ヒマラヤ）」アドベンチャー・ツアラー、「Scram 411（スクラム・ヨンイチイチ）」アドベンチャー・クロスオーバー、そしてアイコン的なBullet 350を用意しています。ライダーと情熱的なコミュニティは、地元、地域、国際レベルでの豊富なイベントによって育まれています。特に、毎年ゴアで開催される何千人ものロイヤルエンフィールドファンが集まる「ライダーマニア」や、最も過酷な地形と最高峰の峠を越える巡礼の旅、「ヒマラヤンオデッセイ」などは有名です。

Eicher Motors Limited（アイシャーモーターズ・リミテッド）の一部門であるロイヤルエンフィールド社は、インドの主要都市に2,050箇所以上の店舗、世界60カ国以上に約850の店舗を展開しています。また、ロイヤルエンフィールドは、イギリスのブランディングソープとインドのチェンナイの2箇所にテクニカルセンターと呼ぶ先進的な開発部門を有しています。また、チェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルに2つの最新鋭の生産施設を有しています。世界では、ロイヤルエンフィールド社は、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの4ヶ所に最新のCKD（コンプリート・ノックダウン：製造国から車両すべての部品を輸入し、現地で組み立てて完成車とする方法）組立施設を有しています。過去5年間のCAGRは35%以上で、ロイヤルエンフィールドは世界の中型モーターサイクル市場をリードしています。

ロイヤルエンフィールドのブランドやモーターサイクルに関する詳細は、下記公式ウェブサイトをご覧ください。
<http://www.royalenfield-tokyoshowroom.jp/>

【製品に関するお問い合わせ先】

ピーシーアイ株式会社（ロイヤルエンフィールド正規輸入販売元）
E-mail: press@pci-ltd.jp

【報道関係者のお問い合わせ先】

ポークロム株式会社 担当：小林・安齋・田中
Tel. 03-6822-4666
email: mailto:re_jp_pr@polychrome.co.jp